

島根県 松江市における三歳児健診の取り組みについて

奥 舞

(医) 野田眼科医院

松江市の三歳児健康診査（三歳児健診）の取り組みについて報告させていただきます。島根県三歳児健診は昭和36年より県主体で開催され、平成6年から市町村に主体が移されました。

視覚検査が導入されてから平成18年度までは各家庭でランドルト環での視力検査を行い、できなかった場合は保健師による絵視標での検査を実施していました。問診・視力検査・小児科医の診察により異常が発見された場合、要精密検査としていました。

平成17年度から、鳥取県米子市で視能訓練士によるレチノマックス®での他覚的屈折検査が導入され、疾病発見率が2倍にあがったと報告がありました。松江市でも他覚的屈折検査を導入することが検討され、島根眼科医会の理事を務めている当院院長に協力依頼がありました。以前より眼科健診の充実を図りたいと考えていたことから、導入に賛同し、平成19年度からは視能訓練士によるレチノマックス®での他覚的屈折検査、眼位・眼球運動検査、近見視力検査を実施しました。その結果、疾病発見率が向上しました。（図1）

現在の三歳児健診全体の流れを表1に示します。

松江市では当初、歯科健診のフッ素塗布は早い時期が良いとされていたこともあり、健診対象月齢は3歳1ヶ月でしたが、視力検査理解が不十分であるため、当院院長より3歳5ヶ月での実施を要望しました。小児科医の理解も得られ、平成23年度市町村合併を機に3歳5ヶ月に移行されました。結果、ランドルト環での視力検査を実施できた児の割合が4割から6.5割に向上しました。

さらに、平成28年度からは、レチノマックス®に加えてSpot™VisionScreenerを併用し屈折検査を行っています。Spot™VisionScreener導入により機械を怖がる児でも、比較的嫌がられずに検査を行うことができるようになりました。また、両眼開放下・遠見（1m程度）での測定という特徴もあり調節の介入が極力抑えられ、遠視の見逃し防止につながり不同視弱視および屈折異常弱視の発見率が向上しました。（図2）

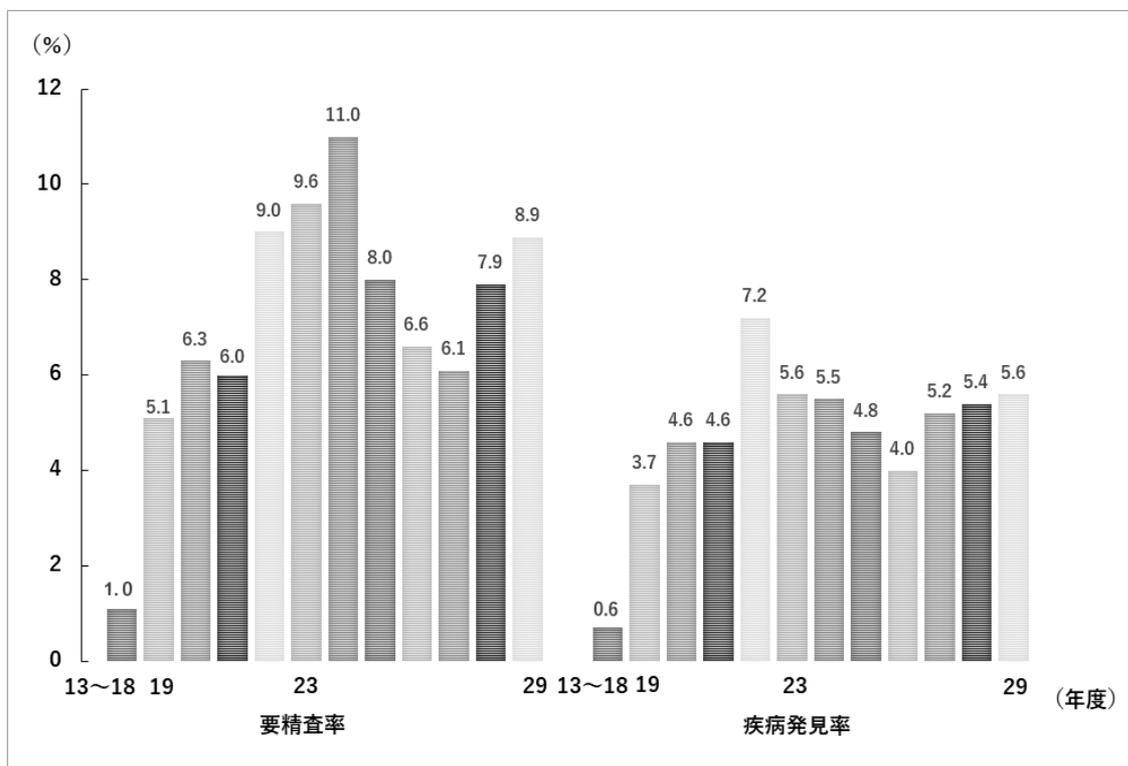
以上の詳細は、「松江市3歳児眼科健診の過去11年間の結果報告」として眼科臨床紀要に掲載しております。1)

現在、小児科医、歯科医、眼科医、耳鼻科医、保健師による乳幼児保健対策会議、保健師および視能訓練士対象の勉強会を定期的で開催しています。また健診に参加している4施設18名の視能訓練士による独自の勉強会やメッセージアプリを使った情報共有も行っています。健診の精度向上のため今後も改良しながら続けていきたいと考えております。

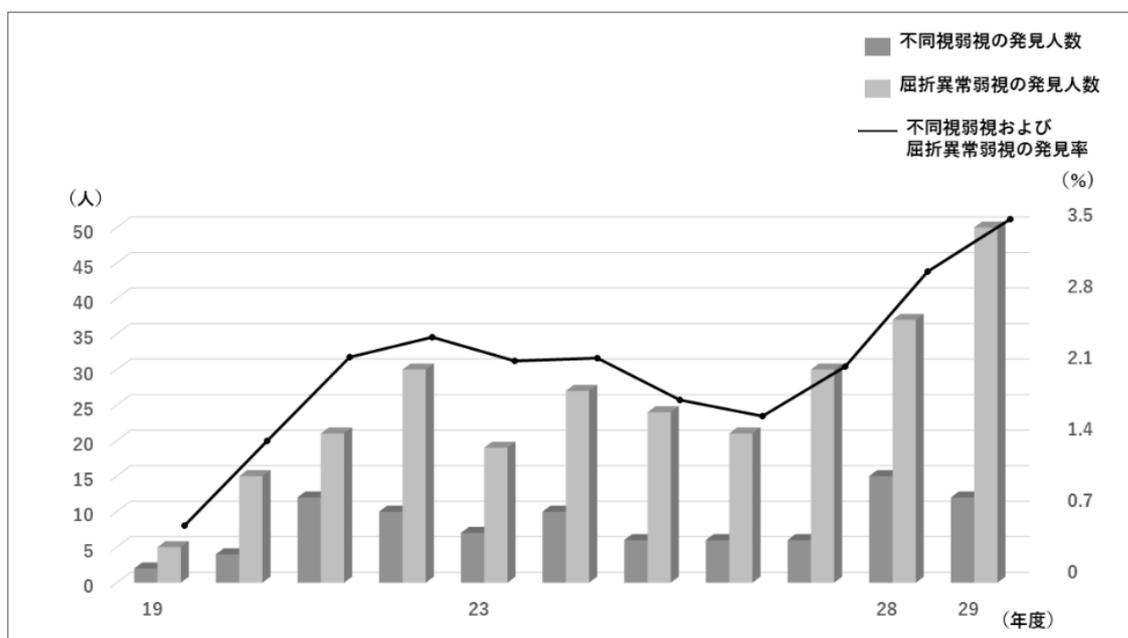
参考文献

- 1) 野田佐知子, 奥舞, 他: 松江市3歳児眼科健診の過去11年間の結果報告, 眼科臨床紀要 13 (5) : 357-360, 2020

【図1】 11年間の要精査率と疾病発見率



【図2】 不同視弱視および屈折異常弱視の発見率



【表1 松江市三歳児健診の全体の流れ】

受付後、問診までの間に保健師による食事・発達についてのミニ講座	
①問診	保健師...事前に記入していただいた問診票を元に聞き取りを行う 近見視力検査 (ランドルト環)
②眼科検査	視能訓練士...他覚的屈折検査 (レチノマックス®・SVS)、眼位・眼球運動検査、問診で出来なかった場合は、再度近見視力検査 (ランドルト環又は森実氏ドットカード) を行う
③身体計測	看護師...身長・体重・頭囲の計測
④小児科診察	小児科医...診察
⑤歯科診察	歯科医...診察
⑥歯科相談	歯科衛生士...ブラッシング指導・希望者はフッ素塗布
⑦相談	保健師・臨床心理士・管理栄養士・発達、教育センター (エスコ)
・対象月齢	3歳5ヶ月
・実施回数	3回/月
・受診者数	55名前後/回
・視能訓練士参加人数	3名/回
・要精密検査基準	視力：ランドルト環で0.5未満又は、森実氏ドットカードで0.6未満 屈折異常：6D以上の近視・2D以上の遠視、乱視、不同視 眼位・眼球運動異常